

S01-2 抗インフルエンザAウイルス活性を有する(+)-スタキフリンの全合成

○加藤 正¹, 渡邊 一弘¹, 櫻井 淳二¹, 阿部 秀樹¹

¹東北薬大

スタキフリン (**1**) は、*Stachybotrys* sp. RF-7260 の培養液から単離・構造決定された新しい作用機序を有する抗インフルエンザウイルスA活性物質である。本シンポジウムでは (+)-スタキフリンの全合成について発表する。すなわち、3,5-ジヒドロキシ安息香酸から誘導したイソインドリノン **2** (*DE*環部) と エノン **3** (*AB*環部) の Birch 還元的アルキル化によりカップリング体 **4** を合成した (**2** + **3** → **4**)。次いで、数工程の官能基変換を経て環化前駆体 **5** とした後、 $\text{BF}_3 \cdot \text{Et}_2\text{O}_2 / \text{TFA}$ 存在下、鍵反応である新規ドミノ型-エポキシ開環/カルボカチオン転位/エーテル環化反応により、五環性化合物 **6** (*ABCDE* 環システム) を合成した (**5** → **6**)。さらに、*A* 環部の二級水酸基の立体反転、続く *DMB* 基およびメチル基の除去を順次行い、(+)-スタキフリン (**1**) の全合成を達成した。

